平成31（2019）年2月6日

実効性ある原発避難計画とは？

検証1：冬期間　積雪時　夜間の場合

柏崎市長　櫻井雅浩

検証日時：平成31（2019）年1月28日 20:30~23:30　天候：雨→みぞれ→雪　気温：1℃～－1℃

経路：　柏崎市女谷　綾子舞会館　→　国道353→　県道275　→　県道12　→　国道253
→　上越市大島就業改善センター（避難予定地）折り返し　→　国道253　→
十日町市蒲生　→　国道353　→　綾子舞会館

結論：

現在の道路状況、整備体制、除雪体制では、上記ルートによる冬期間、積雪時、夜間の原発災害避難は現実的なものではないと思われる。

積雪による車両のスリップ、スタック、積雪による幅員の減少、散発する雪崩、また当該地域住民の多くが高齢者であり、日頃使用の車両が軽車両であること等を鑑みれば、夜間、積雪時は即時に避難行動に入るのではなく、一時自宅待機が現実的であり、より安全であると思われる。
また、雪崩等によって経路に通行止めが発生した場合、別ルートの確保は困難であり、自衛隊ヘリなどによる輸送も求められる。さらにその場合には、冬期間、雪崩を引き起こしかねないヘリのホバリング、ヘリポートの確保など課題も多い。含め避難計画の再検討を進めることとする。

以下の写真は、平成31（2019）年1月12日、27日昼間のものである。

県道１２号線　柏崎市　十日町市境界　（2019.1.12 a.m.）

（2019.1.12 a.m.）

M.SAKURAI

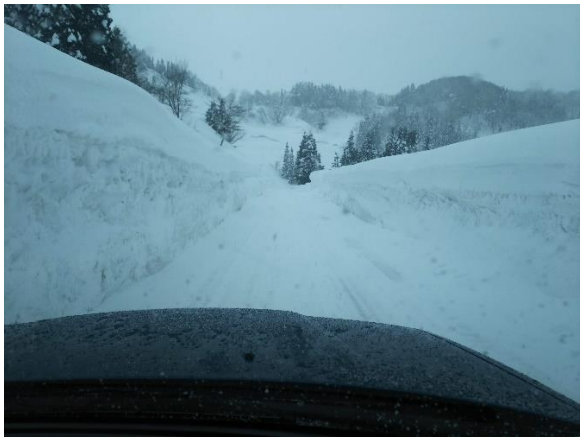
国道３５３号線　十日町市小貫付近　（2019.1.12 a.m.）

M.SAKURAI

国道３５３号線　柏崎市十日町市　境界（2019.1.12 p.m.）

国道３５３号線　柏崎市十日町市　境界（2019.1.27 p.m.）

(2019.1.12 a.m.)



柏崎市居谷（2019.1.27 p.m.）

柏崎市居谷（2019.1.12 a.m.）

M.SAKURAI

原発避難計画の実効性を高めるためには

- 避難経路道路の整備（R353,R252 幅員拡幅、除雪退避帯、雪崩防止柵等）、新設
- 除雪体制の拡充（人員の確保、処遇改善、重機整備等）
- 避難体制の見直し：　即時避難　一時自宅退避・待機　自衛隊ヘリなどによる輸送

様々な協議、見直しを新潟県とも連携しながら始めさせて頂きますが、
国からはそれぞれの事項を実現せしめるもの、つまり財源の裏付けを
法によって担保していただきたいと改めて要望致します。

原子力災害対策特別措置法の改正、であります。
私が申し上げているのは柏崎刈羽原発のことだけではありません。
離島、狭隘道路、また航路での避難等の課題を抱える原発関連施設近くの
住民の安全、安心確保のために、何卒、宜しくお願い致します。

世界一の原発集中立地点
柏崎の雪 2018

2018/2/6.7　　鵜川244 CM　　石黒233CM

東京電力柏崎刈羽原子力発電所の再稼働が求められております。

地域住民の安全を確保し、安心感が醸成されなければなりません。そのためには特にこの冬期間の交通の確保は大前提となります。

何卒のご理解とご高配をお願い申し上げます。

柏崎市長　櫻井雅浩